

〈図画工作科〉 6年

現在の分析

〈知識及び技能〉

- ・前学年までの材料や用具についての経験を生かそうとする様子が多く見受けられる。手や体などを十分に働かせ、工夫してついたり、表したりしている。

〈思考力・判断力・表現力等〉

- ・身近な材料や場所などの色や形から発想したり、つくりながらイメージを広げたりする児童の姿が見受けられる。
- ・活動中に友達の表現のよさや面白さに気付く児童や、表し方によって様々な違いがあることに気付く児童もいる。

〈学びに向かう力・人間性等〉

- ・全体として意欲的であり、様々な表現方法に関心をもって、楽しんで取り組む児童が多い。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・材料や用具の扱いの習得に差があったり、既習の基礎的な技能を忘れていたりする場合がある。

〈思考力・判断力・表現力等〉

- ・感じたこと、想像したこと、見たことなどの中から、表したいことを見付けることが難しい児童もいる。
- ・自分や友達の作品のよさや面白さ、工夫したこと等を感じ取ることはできているが、自分の表現に取り入れる様子はあまり見受けられない。

〈学びに向かう力・人間性等〉

- ・新しい表現方法や材料にも意欲的に取り組んだり働きかけたりするが、児童によって活動の深まりに差がある。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・手や身体を十分に働かせて活動できるような題材を引き続き取り入れる。
- ・新しい表現方法や道具を扱うときは、正しい使い方を知り、試したり練習したりする時間を十分に設定する。
- ・前学年までに学習した技能を扱う場面を繰り返し設けるようにする。

〈思考力・判断力・表現力等〉

- ・材料に触れたり、働きかけたりする時間を十分に設け、材料から発想を広げ、自分なりのイメージが持てるようにする。
- ・色や形、質感などの組み合わせの美しさや面白さやよさに気付かせてイメージを広げていくようにする。
- ・木材や液体粘土など新しい材料と出合わせ、その特徴をとらえて発想のきっかけにさせる。
- ・大型テレビ等のICTを活用し、コロナ禍においても活動中や活動後に適宜互いの表現を見合う時間を設定し、表し方のよさや面白さ、工夫したこと等を感じ取り表現活動に生かせるようにする。
- ・様々な表現方法や材料に触れ、表し方や材料の違いを感じ取れる機会を設ける。

〈学びに向かう力・人間性等〉

- ・題材や材料との出会いを工夫する。
- ・ためしたり、やり直したりできる場の設定や表現方法を工夫する。
- ・スモールステップで発展できる制作過程を考たり、活動のきっかけになるような声掛け等の支援をする。